



卵巣の卵は毎日自然に死んでいっています。月に一度排卵される一つの卵の影で100〜200個ほどの数が自然消滅しているのです。排卵さ

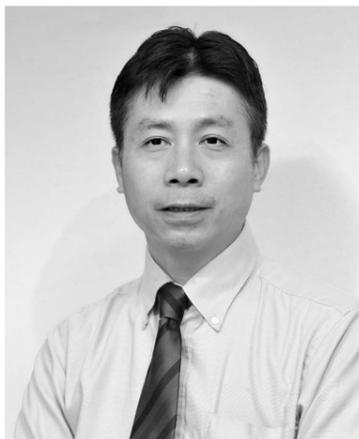
治療すると決めたなら 卵巣年齢が高くなる前に

夫婦ふたりで 解決する 不妊治療

ら半分は男性側に何らかの原因があるのですから、原因がわかったら意外に簡単に問題が解決する場合もありますから、男の活券などにこだわらず、検査を受けてほしいですね。

卵巣は時間経過に敏感で、年をとるにつれてダメージを受けていきます。普通でも100や200個が脱落するということは、卵にとってたぐええ過酷な状況なんです。残った卵もどんどん劣化していきます。だから妊娠は少しでも若い方がいい。それは断言できます。自然妊娠はもちろん、体外受精も若い卵の方がいいのです。

不妊治療というと日本人男性はどうしても積極的になれません。不妊原因が自分にあるかもしれないにもかかわらず、妻任せ、あるいは無関心を装う人が多いようです。でもそれは不安の裏返し。そんな男心を理解しつつ、二人で向き合う不妊治療について考えてみましょう。



足立病院生殖内分泌医療センター長 中山貴弘 [なかやま たかひろ]

1985年、愛媛大学医学部卒業。1987年、国立大阪病院(現大阪医療センター)産婦人科勤務。1995年、京都大学医学部産婦人科助手、京都大学附属病院生殖補助医療主任。1999年、京都大学医学部産婦人科講師(生殖医学)2003年、財団法人今井会足立病院不妊治療センター長。2010年、同足立病院生殖内分泌医療センター長。現在京都大学医学部非常勤講師、生殖医療指導医、日本産科婦人科学会認定専門医、日本受精臨床学会評議員。

体外受精という何か特別な印象を受けられるかもしれませんが、自然妊娠が難しい状況、たとえば卵管が詰まっている場合、卵管が詰まっていたら精子と卵子は出会えません。そのため手助けして両者の出会いの場を作ってやるのが体外受精です。それはごく自然なこと、そもそも出会えない方が不自然ですよ。いわば受精を手助けして子宮に戻すという手助けだけなので、倫理的な問題もありません。当センターで不妊治療をされて生まれ

れる赤ちゃんのほぼ半数は体外受精です。選択肢としてはあたりまえになっていきます。治療していくと体外受精への抵抗はなくなることができます。ですが誰でも、というわけではありません。一人一人の環境が違いますし、その時々状況も違ってきます。常にその人に応じたベストな治療を提供するというのが私の生殖内分泌医療センターの目標です。できれば自然妊娠していただきたいですね。

「ご主人ときちんと向き合って意思を伝える」 不妊治療において夫婦二人で積極的に治療に取り組もうという男性の割合は案外、少ないんです。奥さんが生懸命治療されているのに、ご主人が協力的でないという悩まれている方は多いですね。 不妊治療という人為的なことに男性の方がナイーブなんです。プライドもあるでしょう。しかし、男性の

の協力があれば治療成績もよくなります。当たり前のことですが妊娠は二人が協力してこそたまるものです。ですから一人の温度差が違うと難しい。という日に、ご主人が帰ってこない、そこで大げんかになりますよね。でもけんかしたら絶対だめなんです。よいいできなくなる。そんなときは怒ったらだめだよ、怒る代わりに泣くんだよということもアドバイスしますね。(笑)医療サイドには治療技術もさることながら、それらのケアも必

要なんです。 ただ奥さんの方も聞いてくれないとあきらめる前にきちんとご主人と向き合ってください。自分の意思を伝えることが大切だと思います。本来はまず二人で話し合ってください。計画性を立てて、それに向かって協力し合って進むのが筋だと思います。

日本人の男性は世界で一番生活が少なくないといえます。報告では年間400回程度ですか。ギリシャでは1800回とか1900回とかなんです。日本の男性は、良い意味でも悪い意味でも淡泊だと思えます。仕事が忙しいこともあり、不妊になった場合に協力する姿勢にもやや積極性が足りないですね。 治療はまず検査をして道筋をつけなければなりません。ところがなかなか精子検査をしてくれないという人もおられます。可能性として



妊娠力を高める…… 鍼灸とスーパーライザーで妊娠された治療例

妊娠しやすいからだづくりのためにスーパーライザー(光照射治療器)を…… 心地よい温感とともに生体効果が期待できます。

治療改善例① (43歳Aさん)

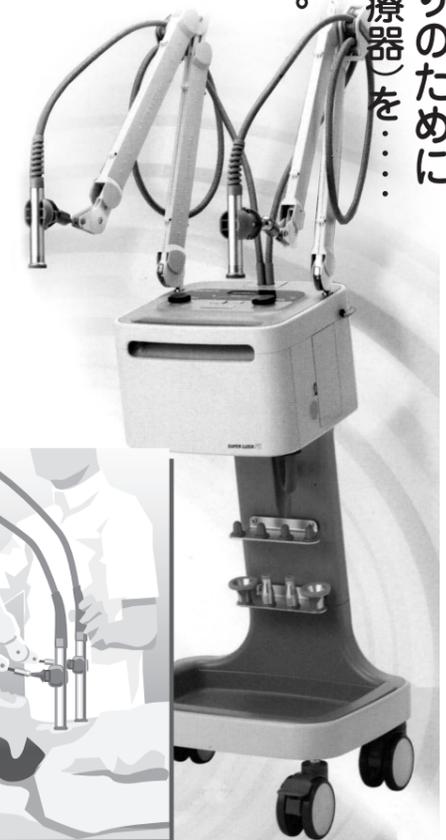
30代後半から不妊治療を初めて4年。卵管に異常はなく、問題があるとすれば内臓が5〜6mmと薄いこと。タイミングもAIH(人工授精)も10回以上試みたが妊娠しなかった。ステップアップで体外受精を試みたが、出てくる卵胞の数が2〜3個。プアーレスポンスというタイプで、受精卵の変性も多く、移植することができずのは3回に1回くらい。鍼灸治療半年後、フロミッドで採卵したのが胚盤胞になり凍結。2個の胚盤胞を凍結するの1年かかったが、後は内臓の問題。凍結胚移植周期に鍼灸治療にスーパーライザーを3回照射。何と内臓は9mmと厚くなり、凍結胚移植。43歳で初めて妊娠されました。

治療改善例② (36歳Bさん)

20代後半で自然妊娠したが、いろいろ事情があり中絶する。その後、30代前半で自然妊娠するが、心拍が出てから妊娠7週後半で流産。その後、なかなか妊娠しないので35歳で不妊治療をはじめ、人工授精を7回ほどするも妊娠せず。体外受精をしたが10個採卵中、胚盤胞に2個なり。これは新鮮胚移植、もつは凍結。2回の体外受精でマイナス判定。 体質改善をしたいということとで当院で鍼灸治療をはじめられ、4か月目で2回目の体外受精シフト法、採卵の周期に鍼灸と子宝ソフト

治療改善例③ (44歳Cさん)

婚期が遅く40歳を過ぎてから結婚。妊娠できるかと思っていたが、2年たっても妊娠できないので不妊治療を始める。どうして子どもが欲しい気持ち強く、体外受精を3回ほどやるがすべてマイナス判定。 できることは何でもやろうと思ひ、鍼灸治療と子宝ソフト整体始めると、とてもきつかった生理痛が3か月でなくなり、血液の色や質が赤黒い粘りとしたものから、12色の絵の具の赤のようにサラサラで10代の頃のようにきれいになった。5回目の体外受精シフト法で12個中4個が胚盤胞になる。グレードも4ABが2個、4BBと3BB。スーパーライザーは採卵の周期に1回、凍結胚移植の当日に1回。44歳で初めて妊娠されました。 流産予防の鍼灸治療を継続中。



不妊治療で注目される「スーパーライザー光線治療器」

- ◆頸部の星状神経節にスーパーライザーを照射することにより脳内の血液の流れが改善されます。それにより自律神経のバランスが良くなり、下垂体から分泌される女性ホルモンの分泌が安定します。
- ◆下腹部のツボ、関元(かんげん)にも照射することで、子宮や卵巣への血流にかかわる内臓骨動脈や子宮動脈、卵巣動脈の血流を改善します。それにより、質のいい卵子の形成や子宮内膜をふわふわで厚くなりやすくし、受精卵が着床しやすくなります。

- 治療施術費
 - ★スーパーライザーPXのみ 5250円
 - ★鍼灸治療 & スーパーライザーPX 8800円
 - ★子宝ソフト整体 & スーパーライザーPX 8800円
 - 上記料金はすべて(税込)です。



総合病院なみの対応力&クリニックならではの親近感

いちおか泌尿器科 クリニック

診療科目
■一般泌尿器科 ■男性不妊外来 ■女性泌尿器科外来 ■男性更年期外来

Tel.075・231・7227

京都市中京区東洞院通り二条下ル シンフォニア御池1階

診療時間	月	火	水	木	金	土
AM 9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
PM 1:00~ 4:00	予約制					
PM 5:00~ 8:00	●	●	●	●	●	●

※お電話でのご予約も承っております

いちおか泌尿器科クリニック 検索 休診日:日曜日:祝日

■診療時間 (完全予約制)

診療時間	月	火	水	木	金	土
●午前10時~12時	●	●	●	●	●	●
●午後3時~4時	●	●	×	●	●	×
●午後6時~7時	●	●	×	●	●	×

〈休診日〉日曜日・祝日、水曜日・土曜日は午後1時受付終了

■治療費 初診料 2,100円(初回のみ) 施術費 6,300円(税込)

◆東洋医学による不妊治療専門院

烏丸御池鍼灸院

京都市中京区御池通烏丸東入ル 仲保利町185 (時事プレス京都ビル4F) ●地下鉄烏丸御池駅1番出口スグ

TEL 075-241-2101

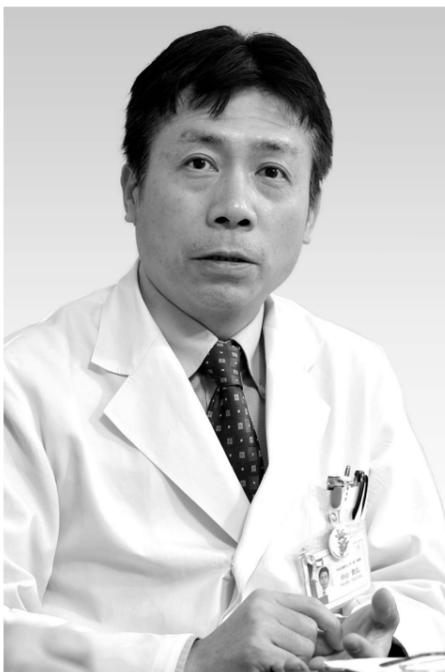
http://www.karasumaoike.com/ E-mail:info@karasumaoike.com

不妊治療は女性だけが取り組むものではありません。今回は女性側、男性側、そして鍼灸などの東洋医学の立場から、夫婦二人で取り組む不妊治療最新事情を足立病院生殖内分泌医療センター長中山貴弘先生、いちおか泌尿器科クリニック院長市岡健太郎先生、烏丸御池鍼灸院院長大村賢秀先生にお聞きしました。

不妊治療で生まれた子供は幸せです

大村 足立病院は、今や不妊治療でも全国的に有名な病院になりましたね。みなさん、初めてこれだけびっくりされるみたいですよ。こんなにたくさんの方が治療してらるのか。そして逆に勇気づけられておられると思います。

中山 体外受精の治療件数では全国で7、8位と増加傾向です。後発ですが、産科と二階にあるのも安心されるでしょうね。いま、不妊に悩んでおられる方は本当に大勢いらっしゃる。



中山貴弘先生

から妊娠しないように防御機能が働くわけですね。無排卵になるだけか。逆にストレスがとれるだけで妊娠される方がたくさんおられる。

大村 私は鍼灸や整体で患者さんをサポートしていますが、体外受精するのなら1年でも早い方がいいと言っています。先生は年齢についてはどうお考えですか。

中山 全くその通りです。若い方がいい。現在は胚を凍結して保存できる技術が格段に進歩し、

性欲の低下、忙しすぎるなど現代の不妊症はいろんな要素が加味されています。中でもライフスタイルの変化というのが大きいですね。運動や食生活も大事。身体をまず健康にしないと。

大村 私もまず生活のリズムをとりたいですね。睡眠や食事、睡眠や食事はよくアドバイスさせていただきますが、体質改善という意味で東洋医学はサポートできると思います。まずはじっくりと患者さんのお話を聞いて心と体のバランスを整え、治療を施します。

中山 話を聞いてもらうというのはとてもいいんです。精神的ストレスをばかにしてはいけない。精神的ストレスだけで流産してしまうという報告もあります。妊娠もそうだと思う。ストレスを抱えているときに妊娠したら女性は大変じゃないですか。だ

から妊娠しないように防御機能が働くわけですね。無排卵になるだけか。逆にストレスがとれるだけで妊娠される方がたくさんおられる。

泌尿器科は男性側不妊治療の進化形

大村 シンフォニア御池1階に市岡先生が泌尿器科を開業されましたね。
中山 いつでもすぐ検査ができるのでご夫婦での来院も促せるようになりました。

夫の気持ち？ 妻の気持ち？

「夫婦で取り組み、妊娠率を高める…」

- ◆出席者
- 足立病院生殖内分泌医療センター長 中山貴弘先生
- いちおか泌尿器科クリニック 院長 市岡健太郎先生
- 烏丸御池鍼灸院 院長 大村賢秀先生

夫婦関係が疎遠になる。よくあるケースなんです。病気があれば治療するだけでなく、結婚・妊娠・出産・社会的な関係、人間関係も包括的に見ているつもりです。

大村 先生のクリニックの専長は何ですか。

市岡 男性はなかなか来院できないですから当院でも早く結論を出すようにしています。男性の無精子症は精液検査あるいは診察をすればすぐわかります。それなのに奥さんが何カ月もかけて不妊治療されてるといのはよく聞く話なんです。

当院では都合二回の来院で今後の見通し、治療計画までたてます。治療方針が決

まったら何カ月も悩むことありません。

それと禁煙。喫煙は精子に悪影響を及ぼす最も大きい要素のひとつです。子どもを作るという目標があれば成功率は高いです。うちの患者さんは今のところ100%ですね。

大村 無精子症にはオペという手段がありますね。

市岡 「MD-TESSE顕微鏡下精巣内精子採取術」という最先端手術です。睾丸から直接精子を取ってくるもので、昔では絶対不妊といわれていた人でも4割くらいの割合で精子が採取できます。無精子症と診断されてもまだあきらめるのは早いです。

より効果的に連携する東洋医学治療

大村 私は日本の不妊専門病院の中で、鍼灸の世界を拓いたパイオニアと思っていますが、男性の場合は効果が出るのは早いです。3カ月かからないですよ。

当院に来られる人はだいたい精子の運動率が20%以下位の人が多いのですが、それが治ると50~80%以上にはなりますね。
市岡 遺伝子異常、無精子、静脈瘤の極端な場合は西洋医学の手術などですばつと治るでしょうけれど、食生活やストレスそういう部分に関しては治療のしようがない。ストレスをなくせといっても無理なんです。東洋医学的な考え方も必要ですね。本来的な治療には体質改善も考えないと。

そうなるとう東洋医学の方が強いと思います。
大村 男性のホルモンバランスも大事ですね。私のところでは鍼灸の立場で治療していますが、東洋医学的に泌尿器系が弱い、特に腎臓系が弱いと精子を作る能力が弱いといわれています。女子も同じです。精気は腎臓系に宿るといわれています。つまり泌尿器系は生殖能力に密接に関係している。データがあるわけではなく、経験的にわかっているんです。

まず不妊専門病院に行く。男性不妊外来、まずは検査して原因を調べる。鍼灸はそのあとでかまわない。不妊治療には東洋医学と西洋医学を併用すれば納得のいく治療ができると思います。最近のご夫婦で来られるケースも多くなりました。その場合の妊娠率はやはり高いですね。



大村賢秀先生



市岡健太郎先生